



TOHOKU SEIKATSU BUNKA UNIVERSITY

東北生活文化大学

TOHOKU SEIKATSU BUNKA JUNIOR COLLEGE

東北生活文化大学短期大学部

教職課程センター報

Vol. 2

2018年2月15日

目 次

東北生活文化大学

今 林 直 樹	19世紀フランスのガラス工芸とエミール・ガレ	4
湯 目 俊 彦	美術系大学における図学授業に対する考察 — 対象物に対する図的表現について —	8
	美術系大学における製図授業に対する考察 — 建築製図とインテリア製図、製品製図 —	11

東北生活文化大学短期大学部

大 坪 豊 佐 藤 和 貴	高校生の読譜力向上の試みと考察 — 主体的な読譜力を育むために —	16
------------------	-----------------------------------	----

教育実習報告

教育実習一覧		24
佐々木 翔 平	教育実習報告 — 教育実習（家庭科）を振り返って —	25
虻 川 由 佳	教育実習報告 — 栄養教育実習を振り返って —	27
鈴 木 美 緒	教育実習報告 — 3週間の教育実習を終えて —	29
教育実習（幼稚園）一覧		31
熊 谷 遥	幼稚園実習で学んだこと — 造形活動への取組から —	32

TOHOKU SEIKATSU BUNKA
UNIVERSITY

東北生活文化大学



19 世紀フランスのガラス工芸とエミール・ガレ

今林 直樹*

1. はじめに

エミール・ガレ（1845 - 1904）は、アール・ヌーヴォーの巨匠と呼ばれる、フランスのガラス工芸作家である。ガレはその 30 年に及ぶ作家としての経歴の中で、初期から晩年にいたるまで、その時代、時代の様式を反映させた作品を残している。換言すれば、ガレの作品を振り返ることは、その当時の工芸様式を振り返ることでもある。

本稿では、ガレの作品に現れた工芸様式をたどることで、あらためて 19 世紀フランスのガラス工芸について考えてみたい。

2. 歴史主義と異国趣味

ガレがナンシーで本格的にデザイナーとしてデビューしたのは 1867 年のことであった。この当時のガレの作品に現れた特徴は歴史主義と異国趣味であった。16 世紀末から 17、18 世紀にかけて、フランスではバロックやロココといった様式が工芸作品に反映していたが、歴史主義とはそうした過去の様式に倣って作品を作ることを重視する立場であった。ガレの初期のデザインにはバロック的な動的曲線やロココ的な軽雅で女性的な曲線が用いられており、この当時の工芸理論がまだ既存の理論の模倣にとどまっていることがわかる。

もう一つの特徴は異国趣味である。ガレのデザイナー・デビューの年は奇しくも日本の明治維新の年にあたる。日本にとっては近代への幕開けとなった明治維新ではあったが、ヨーロッパでは日本の伝統工芸に対する強い関心が沸き起こり、ジャポニズムと呼ばれる現象が起こったことはよく知られている。ガレもまたジャポニズムの影響を受けた作家の一人であった。ガレは、初期作品だけではなく、ほぼ生涯にわたって日本的な題材、即ち、魚や鳥、植物や昆虫などをその作品にデザインし続けた。それは、題材が日本的であるというだけではなく、浮世絵や日本画などをデザインのモデルにしたということでもある。ジャポニズムは工芸分野だけではなく、絵画分野に対しても大きな影響を与えたが、ガレはジャポニズムから得たインスピレーションを作品に反映させたのである。

*東北生活文化大学 非常勤講師

3. 象徴主義

ガレの作風に変化が見られるようになるのは 1889 年頃であった。それは同年開催されたパリ万国博覧会に出品された作品によく現れている。その特徴を一言で言えば、象徴主義であった。1870 年代にフランスで誕生した印象派絵画に代表されるように、画家は自然という人間の外部に存在するものと向き合ってきた。それはもちろんガレにとっても重要なことであり、ガレは自然を忠実に写し取ることをデザインの重要な立場とした。しかし、印象派の起こした革新はやがて一つの反動を生む。それが象徴主義であり、自然といった「目に見える」ものを題材とするのではなく、「目に見えない」もの、例えば、人が内面に抱えている苦悩や不安といったものをテーマとして扱うというものであった。ガレはこのような目には見えない人の内面に潜む不安や苦悩を表現するために黒いガラス製品を制作した。ガレがこのような象徴主義の作品を出品したのが 1889 年のパリ万国博覧会であったのである。ガレはガラス、陶器、家具の 3 部門に出品し、クラス 19 (クリスタルガラス、ガラスとステンドグラス) でグランプリ、クラス 20 (陶器) で金賞、クラス 18 (廉価な家具と高級家具) で銀メダルを受賞するなど、大成功を収めたのであった。

ガレの作風が象徴主義へと変化していった背景には、当時、流行していた象徴主義文学の影響があると言われているが、ガレの作風が時代の影響を受けていることを示すものである。

4. アール・ヌーヴォー

アール・ヌーヴォーは、1890 年代から 1910 年代にかけてヨーロッパで流行した様式である。アール・ヌーヴォーという用語はフランス語ではあるが、フランス独自の様式ではなく、例えば、ドイツではユーゲント・シュティールと呼ばれるように、ヨーロッパ各国で独自の現れを示した様式である。アール・ヌーヴォーの流行した時期は、作家としてのガレの生涯において「最盛期」に位置づけられる。まさにガレがガレになった時期であると言ってよいであろう。

では、アール・ヌーヴォーとはどのような様式なのであろうか。マドセンはその理論として次の 3 つを挙げている。即ち、線に内在する価値の原理、植物の有機的な力の原理、象徴としての構造の原理である。この場合、「線」とは曲線のことである。ただし、曲線はバロックやロココといった様式でも用いられたが、アール・ヌーヴォーにおける曲線とは自然から導き出される「線」であった。したがって、単純なものではなく自然の持つ複雑

さが特徴となるものであった。そして、ガレにとって、こうした曲線を含めて、線の複雑さを表しているものが植物であった。換言すれば、ガレのデザインする曲線には何らかの具体性が反映されているもので、決して自然から離れて抽象としてデザインされているのではなかった。この点が、ヴィクトル・オルタやエクトル・ギマールなどの抽象としての曲線と一線を画すところである。

1877年、ガレはナンシー中央園芸協会会報に植物学に関する発表を行い、同年、同協会の事務局長に選ばれている。1885年にはフランス植物学協会の会員にもなっており、ガレの植物への関心が学術的であることがわかる。ガレはまた博物学にも関心を示しているが、こうしたことも当時の科学主義、実証主義の影響とみることができる。ガレは、1894年にナンシーに自社工場を設立したが、敷地内には数多くの植物を栽培している。このように植物に囲まれ、それらを綿密に観察することが、ガレのデザインにとっては重要な作業であったのである。

5. ガラス工芸における技術革新

ガレは、その若い晩年になって、それまでの技法に大きな変革をもたらす。具体的には、アプリケーション、マルケトリー、アンテルカレールがそうである。ガレは自社工場で生産するようになってから、新しい素材や技術を開発するようになった。それはガレの作品にオリジナリティを与えるだけではなく、「芸術」として高い評価を与えられるまでになっていったのである。

アプリケーションは、ガラスの表面に盛上げ文様を作るときに、ガラスがまだ熱いうちに、あらかじめ用意していた、表面のガラスとは異なる色のガラスの文様を熔着し、冷却した後、グラヴェールで花や虫などのモチーフを削って仕上げる技法である。

マルケトリーは、ガレが家具の寄木細工からヒントを得た、いわゆる象嵌技法である。加熱したガラスに色ガラスの小片を嵌め込み、その上からさらに熱を加えて文様を作るというものであるが、技術的にはかなり困難で、破損する危険性を伴うのが難点である。

アンテルカレールは、透明なガラスの層の間に色ガラスの文様を挟み込み、表層に彫刻を施して、文様の重層的表現を実現する技法である。これは、厳密には、1899年にドーム兄弟が特許を取得したものであるが、ガレの作品にも多くみられる技法である。

ガレはガラス工芸として時代と向き合って制作を続けてきた。そして、その若い晩年、ガレはガラス工芸の新しい時代を自らの手で作ったのであった。

6. おわりに

エミール・ガレの作品に現れた様式の変遷という点から、19 世紀フランスのガラス工芸についてみてきた。

ガレは「アール・ヌーヴォーの巨匠」と呼ばれる人物であったが、フランスのアール・ヌーヴォーには、ガレやドーム兄弟を中心とするナンシー派と、ウジェーヌ・ミッシェルやアンリ・クロといった人々によるパリ派があり、それぞれが独自の地位を築いてきたのであり、その意味では、ガレだけを取り上げて 19 世紀フランスのガラス工芸史を語るとは、もちろん十分ではない。さらに、フランス以外の各国で展開したアール・ヌーヴォーをも視野に入れるとき、その歴史はより複雑かつ重層的なものとなるであろう。それらを含めて記述することは本稿の範囲を超えており、取り上げることはできなかった。今後の課題としたい。

美術系大学における図学授業に対する考察 —対象物に対する図的表現について—

湯目 俊彦*

1. 本学科に於ける図学教育

図学とは図法幾何学の略で、立体である空間図形を、平面である画面上に、正確な対応を有する平面図形として写す方法を学習する学問とされている。すなわち図学の目的は立体図形の認識並びに表現である。図学の領域には製図の基礎の分野も入っているが当学の科目としては図学に於いては描かれた図形自体が目的であるのに対し、かたや製図では図形はある物をつくる為の手段であって、目的でないことが異なることである。

東北生活文化大学家政学部生活美術学科(以下本学科)の、図学の授業を履修する学生のほとんどは、教育職員免許中学・高校(以下教職)の技術・家庭科、工芸の教職を目指している。平成14年度には小学校から高校の新学習指導要領が実施され、約3割の学習内容が減らされるようである。小学校の算数に於いては、展開図・立面図・平面図等の三面図、見取り図さえ学習指導内容から外される現状となっている。今後の算数・数学の教科では図形教育は無くなってしまふ恐れがある。将来の造形芸術の分野への道標は中学・高校の技術家庭・工芸の教科での教育でしか見出されなくなってしまうことになる。そのような意味では、将来教職を目指している学生に対しては、将来の教育的にも大変重要な学問であるとともに、その主旨を理解して図学を履修してほしいと考える。

2. 図学とは

本来図学には投影方図、等測図(または等角図)斜投影方図があり、表現する立体や表現する目的によって図法を考えることが重要であると考えられる。本学科において立体図を書くことは言葉で表現すると同様に、自分のイメージを相手に伝えたり、第三者に対するコミュニケーションの為の表現手段である。昨今学生の立体表現力が減少しているように思われる。学生達は立体や空間の表現をイメージによって実現仕様とする傾向にあるように感じられる。造形芸術の表現手段として立体や空間を描くには、図法に従った図的表現方法を理解することが重要である。それぞれの図法の図的表現を学ぶことにより、様々な表現力を備えて行くと考えられる。

*東北生活文化大学 非常勤講師

3. 今後の当学科の図学授業について

美術系の学生に必要な図的表現は、それぞれの造形の活動によって異なる。絵画の分野では、一般的に空間や町並み風景を表現仕様とするから、見えたように描けることが重要である。またデザイン分野ではデザインした物の制作にあたり、図面や完成予想図を描くことがプレゼンテーションとして重要である。立体や空間の図学的表現は見えたように表現するか、説明的に判るようにして描くかで目的によって異なる。美術系の学科だからこそ、図や図法の原理を知り今後の学生の創造の新たな可能性を見出して、全体的に系統化し、具体的で広い範囲の図学の教育が必要である。

前項でも述べたが、図学を履修している学生の多くは教職を目標としている。現在までの各年の図学のシラバスの進行具合は製図と異なり順調である。平面的な数値的な表現よりは、立体的な表現力の方が美術系大学の資質なのかと感じられた。また今後の小学校の算数、中学・高校の数学の授業で、立体に対する授業が無くなっている現在、中学校の技術家庭、高校の工芸の授業での図学の教育に対しては、重要な位置付けと考える。特に美術デザイン系を将来専攻しようとする生徒には文学に文法があるように形を表現する法則として図学で、図法をかつ具体性を持って教えて行く必要がある。

図学の基本は投影図である。当学科では今後、製図の授業では投影図を主として取り込むこととしている。その趣旨は他の専攻の授業内容と連動するよう、製品製図の投影法の三面図を様々な製品・作品を図面化することによって、現実と向き合わされた内容にするということである。本図学の課題内容も製図と同様他の専攻と連動する内容としたい。

いわゆるレンダリング（完成予想透視図）である。初期は等角図法の基本。1点透視法、2点透視法、3点透視法、D点法、M点法と進行していく。対象物は図学においては建築物・インテリアの内容も付加させる。何故ならば建築物やインテリアの透視図法においては、絵画にも大きな技術的な影響があり、グラフィックにも技術的な要素となりえる。

又後半の課題に於いては、アイデアスケッチから投影図、対象物により1～3点法にて自由課題（他の授業の対象物を含む）にし、より自分が制作している物を対象にし、現実的な課題にして行きたいと思う。最終的には透視法を用いてラフスケッチが可能なまでに技術を習得させていきたいと考える。

今後建築・インテリア系の専攻も可能性があれば、室内空間の1・2点透視法を主にした授業も加え、又建築物の1,2,3点投資法も合わせ、インテリア・建築専攻とした建築・インテリア図学として、前項の図学とは区別した授業として考えていきたい。また今後実

務として考えられる建築製図の、CAD と合わせ 3DCAD の技術も組み入れ、就職対策として、今後のデジタル化による CAD やイラストレーターと組み合わせた技術知識を持ち、他の大学・専門学校との差別化になり就職対策としても有効であると考えている。

美術系大学における製図授業に対する考察 ー建築製図とインテリア製図、製品製図ー

湯目 俊彦*

1. 製品製図と建築製図の教育の違い

東北生活文化大学家政学部生活美術学科(以下本学科)の、製図の授業を履修する学生のほとんどは、教育職員免許中学・高校(以下教職)の技術・家庭科、工芸の教職を目指している。平成 22 年度から前任の非常勤講師から引き継いだ。前任のシラバスを元に授業を実施していたが、課題の内容は前任が 1 級建築士設計事務所の職もあり、おおよそが建築製図の内容であった。現状の授業での建築製図に対する学生の関心はあまりなく、意欲も感じられなかった。その影響もあり課題の進行速度も遅れがちであった。その要因を聞き取り調査してみるといくつかの要因が見えてきた。まず一番多いのが課題図面の数字の細かさと量、縮尺に対する計数的な拒否感、線数の多さ等、数値・数字に対するアレルギー的な要因を感じた。その前提としては建築に対する様々な基本知識の習得をさせない原因もある。そこで改めて本学科の製図の授業内容に関して検討してみた。

本来製図には建築製図と製品製図に分かれている。

< 建築製図 >

建物その他建造物をつくるための製図が建築製図である。図面の種類は敷地図、平面図、立面図、断面図、天井伏図、矩計(かなばかり)図、電気設備図、給排水設備図、室内平面図、室内立面図等がある。その為には建物の建築構造別の知識、建築基準法、消防法等かなり建築の専門知識を学習し、将来建築士を目指している工学系大学の建築科であれば必修であるが、本学科の現状の製図の履修内容は単なるトレースの作業にしかならないと感じており、現状の学生の教職の為の必修や将来の卒業後の目標に対しては、現実的ではないと考えている。

< インテリア製図 >

平成 26 年に日本インテリア学会によるインテリア製図通則が出された。内容は(1)平面図は床上 1m の高さの水平断面図であり、建築躯体・仕上げ・設備だけでなく、家具・ファブリックスや家電機器等などのインテリアエレメント、その他の生活用具も含めて表現すること。寸法表示では空間表示には内法(うちのり)寸法、エレメント表示については外形

*東北生活文化大学 非常勤講師

寸法に基づくことが前提となる。(2)展開図は正面壁から概ね 1m 後退した位置で見た正面図で、左右端部は断面で表現する。平面図に次いでインテリア計画上重要な図面であり、インテリアエレメント、幅木・回縁、内装仕上げ材、寸法、室名等も含めて記入する。(3)天井伏図は天井仕上げ、カーテンボックス、照明器具などの表現が必要な場合に使用することになってあるとなっている。インテリア製図に関しては、生活空間の基本という観点からすれば、今後当学科としても取り入れて行く必要はあると感じている。現状のシラパスの中でも取り入れており、学生の反応は建築製図よりは負担が少なく感じており、インテリア 1,2 の授業とも連動するので、インテリア製図に対しては今後基本知識の内容を入れ込み継続して行きたい。

< 製品製図 >

計画図、試作図、製作図、組立図、詳細図の種類がある。図法としては正投影図という 3 次元の物体を 2 次元で表現する手法であり、第三角法の三面図が主である。正面図、側面図、平面図の 3 方向からの図面で建築図面の平面図が代表的な面に対して、3 面図は正面図が代表的な面となっている。対象となる製品によっては左側面図、右側面図、場合によっては裏面図も必要となる。建築製図と異なり計画図すなわちデザインを正面図でプランデザインし、側面図、平面図とデザイン化し検討する。そしてある程度プランが固まったら試作図面の製図をし、モデリング等を経て制作図に移行する。ここまでの過程がデザイン上の大事ポイントである。そして実際制作する上での問題点等を、製作するスタッフ、営業・販売スタッフ等との打合せをして製作図、詳細図、組立図に移行する。

以上の建築製図、インテリア製図、製品製図を、既存の製図という科目ではなく、本学科の専攻内容に準じた目的別に分けた、内容で授業を構成して行くべきと考えている。

2. 本学科の今後の製図の授業内容について

そこで改めて教職の中学技術・家庭科の製図に関わる内容をみると、材料と加工に関する技術、住生活に関する知識となっており、高校工芸に関しては図法及び製図デザイン、工芸制作となっている。以上の内容を見ると教職の中学技術・家庭科、高校工芸科に対する製図の知識・技術に対しては、建築系の製図より中学・高校の授業内容である木材加工・金属加工・生活用品を主としたプロダクト製品、工芸製品等の製品系製図の方が適していると考えた。

また本学科授業の専攻科目を見ても、工芸基礎・プロダクト制作、木工、陶芸、漆芸に対して、ブランデデザイン化後の製図による図面化によって、実制作する上での構想設計、製品化検討、試作、製品設計の手順を踏んで作品を制作するプロセスを、現状の授業に活かせれば、今後の本学科内での様々な専攻と関連し、精度のある作品制作や卒業制作のプレゼンテーション等にも役立つと考える。

ただし検討する内容として、インテリア製図を本学科内の授業でインテリア1・インテリア2に入れ込むか、製図の授業の一環として、製図1・製図2として分けるかは今後の検討である。

3. 将来の展望

前項で本学科の製図の授業を、製品製図を主体とした授業内容にして行くことを提案したが近年、一般中学の家庭科でもインテリアの授業が履修されはじめており、高校の授業でも一部インテリアの授業が取り組まれている。

また公益社団法人インテリア産業協会の、主催しているインテリアコーディネーター資格試験を受験したい一般大学の学生も年々、受験生が増加の傾向が顕著である。本学科も将来学部科され、専攻も増加する可能性があると思われる。他の大学と同様にインテリア専攻も学部内に新設されると考えると、受験対策で建築製図も充実しなければならない。インテリアコーディネーターの資格試験内容には、2級建築士程度の知識が必であり、作図も同様である。製図の実技と同様に建築の専門知識が必要となり、建築製図のシラバスの中に建築の専門知識も含めたガイダンスが必要である。同時に2級建築士の資格試験にも対応する内要であれば、さらに学生の入学者の範囲が広まるだろう。

また現在のおおよその建築製図、製品製図はCADで作成されており、CADの授業も必要と思われる。デジタル作成に関してはイラストレーター、フォトショップはグラフィック系の専門学校、CADは建築系の専門学校、大学が必修であるが、昨今の広告企画会社の要望はイラストレーター・フォトショップ・CADのすべてを操作出来るスタッフを要望している。そのような状況の中本学科は現在イラストレーター・フォトショップは、すでにカリキュラムに入っており、建築インテリア系の職業に関わらない学生でも、就職活動の範囲も広くなるとと思われる。

いずれにしても、製図というひとつの分野として考えずに、それぞれの製図の専門的要素を広げ、今までの教職の資格対応だけでなく、専攻科目の横断的に考え、製図という授

業を広く浸透して行きたいと思うし、東北生活文化大学という呼称である以上、生活文化と言う概念からすると、生活空間を構成する建築空間の為の建築製図、生活空間を表現するインテリア製図、そして生活空間の中のエレメント(構成物)の製品図をそれぞれの、科目があれば、将来他の大学との差別化と、生活文化という概念を幅広くとらえた、大学として存在意義が、本校を目指す学生に伝えて行けるのではないかと考察している。

TOHOKU SEIKATSU BUNKA
JUNIOR COLLEGE

東北生活文化大学短期大学部



高校生の読譜力向上の試みと考察 —主体的な読譜力を育むために—

大坪 豊*、佐藤 和貴**

1. はじめに

学校教育での音楽の授業における読譜指導については、小学校から高等学校まである程度体系的に示されているものの、児童生徒の読譜力の実態は学校外での音楽経験の有無によって大きく差がある。校種ごとの学習指導要領によってカリキュラムが示されているにもかかわらず、学校での読譜指導は歌唱や演奏などの音楽活動を実現するための手段として、授業の中で捕捉的に紹介される程度にとどまっている場合が多い。

音楽系の部活動に入っている児童生徒でも、読譜を含む視唱などのソルフェージュの能力は低い。さまざまな行事やコンクール至上主義により、個々の生徒の基本的音楽的能力の向上よりも表面上の出来栄えに評価の視点が集中し、生徒一人ひとりの音楽能力の習得が大切にされなかった面があると考ええる。授業や部活動での活動も含めて、現状では丁寧な読譜指導が行われず、耳で聞いて旋律やリズムを覚えるやり方も蔓延している。そもそも生徒たちも自身で楽譜を読んで練習する意識がなく、「聞いて覚えるからメロディーを弾いて欲しい」と言う声もよく聞かれる。そのため、本来正確な読譜によって得られる拍節感や音楽の構造を知ることによって得られる楽曲の深い理解が阻害されている。

本稿では、リズムに焦点を当て、高校生の読譜力の実態を踏まえ、上級学校での音楽学習や社会活動の上で主体的に音楽活動を行う能力を身につけるための指導実践について考察する。

2. 実践

対象：I高等学校吹奏楽部生徒（1年生6名）

期間：2017年12月

研究方法：ソルフェージュ指導書の参考文献を利用し、生徒のリズムの読譜力、演奏力の変化について考察する。

指導楽曲：Jan Van der Roost/ヤン・ヴァン＝デル＝ロースト作曲、4つの古い舞曲/Four Old Dances、（管打6重奏による）

*東北生活文化大学短期大学部 教授 **宮城県石巻北高等学校 教諭

I. 研究の方法

対象生徒の多くは、中高吹奏楽部での音楽経験のみである。リズムを含めての読譜力は、ある程度指導者がマンツーマンでの指導を行わないと読譜が進まない。前項でも述べた通り、生徒たちは音源や指導者の模倣から聴き取ろうとするが、表面上のリズムを認識することに精一杯で、自らリズムを感じ取ったり、そのリズムがもたらす拍節感、躍動感など、動的に捉える能力が未発達である。ゆえにアンサンブルのような楽曲においては、個々の奏者のリズムの感じ方がまちまちであり、奏者全員での息のあった演奏となるまで、リズムの読譜力を身につけることが大きな課題である。

以上の実態を踏まえ、主体的にリズムを感じ取る読譜力を高めることができ、リズムを表面上ではなく動的に感じ取ることのできる教材を用いて、生徒の表現の変化を考察する。

I-a. 事前アンケートによる生徒の実態

質問と結果は以下の通りである。

質問：楽譜を読む際、次の①～④について自身の理解度を教えてください。

表1（単位：名）

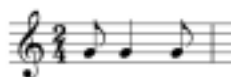
内 容	教えてもらっても分からない	教えてもらえれば分かる	自分で分かる
① 音名・音階	0	2	4
② 音価	0	3	3
③ リズム	0	5	1
④ 拍子	0	5	1
[自由記述] 楽譜の読み方で悩んでいることを具体的に書いてください。 (リズムに関するものの抜粋) ・ 16分音符とかややこしい拍子だと慣れるまでに時間がかかる。 ・ 16分音符に付点とかがついている音符だとすぐにすらすら読めない。 ・ <u>リズムを感じるができない。</u>※1 ・ 拍子が変わると拍の音の長さやリズムが分からなくなる。 ・ 音符の長さも見ただけではどのくらい伸ばせば良いか分からない。 ・ <u>強く叩く部分と弱く叩く部分が分からない。</u>※2 ・ リズムと音符の長さで、だいたい分かるけど難しくなると分からなくなる時がある。			

結果からみられることは、音名や音価、音の長さは自力で理解できるが、リズムや拍子については苦手意識があり、主体的に理解することが苦手な生徒が多いことである。自由記述の回答（※1、2）にもあるように、特に音符から音楽の拍節感など、動的に音楽を感じ取る能力が未熟である。指導楽曲はバロック時代の舞曲をテーマにしたものであるが、本来、音楽の起源のひとつは踊りや舞曲であり、楽譜に記された音符から身体の動きを連想でき、歩く早さやステップのリズムなどを感じ取る力を身につけさせる手助けになればと考える。

I -b. 教材の設定

本研究では、筆者の音楽指導歴の中で、音楽経験が少ない生徒が最も理解することが難しいリズム音形であると感じている以下の2つのリズムパターンを取り上げる。

① シンコペーション



② 付点のついたリズム



上記のリズムにおいて、次の参考文献の指導例をもとに検証する。

I -c. 参考文献

- 1) 大坪豊：音楽事始，東北生活文化大学短期大学部，2015，p11-13
- 2) 舟橋三十子・吉川和夫・山口多嘉子：はじめてのソルフェージュ1リズム編〔基礎〕，全音楽譜出版社，1984，p6-14

1)については口唱歌によるリズム読みによる活動、2)については動的にリズムを感じ取る活動によって生徒の表現の変化を考察する。

II. 実践例

以下の2つの方法による実践を行なった後、楽曲中のリズムの該当箇所を取り上げ、応用する。

II-a. 実践例1（音価の比率を体験する口唱歌によるリズムトレーニング）

- ① いろいろなリズム型で訓練（同じリズム型を繰り返す）
- ② 口で唱える
- ③ 唱えながらリズム打ちをする
- ④ 片手でテンポを打ちながら、反対の手でリズム型を打つ

※ 読み方の例

- ・ シンコペーション：タ ッ タン タ ッ
- ・ 付点：ター アン タ ッ

II-b. 実践例2（動的に音楽を捉えるリズムトレーニング）

- ① 腕の回し方を時間の流れに見立て、拍をつくる（4分音符と4分休符を感じる練習）
- ② 拍を2つに分ける（8分音符を感じる練習）
- ③ あと打ち（8分休符を感じる練習）
- ④ シンコペーション（①～③の方法を応用する）
- ⑤ 付点のついたリズム（①～③の方法を応用する）

3. 考察

I. 事後アンケートによる生徒の理解

以下は指導後の生徒の記述の一部である。

質問：2つの練習方法でリズムの理解にどのような変化がありましたか？

I-a. 実践例1（音価の比率を体験する口唱歌によるリズムトレーニング）

- ・ 口だと1つずつバラバラにして考えられるし、音符に言葉を当てはめてやると吹きながらでもイメージできやすかった。
- ・ 口で言うとは意外と間違えやすく、難しいと思いましたが、いい練習だと思いました。
- ・ なんとなく分かるようになったがすぐ忘れそう。
- ・ リズムの意識の仕方がなんとなく分かった。
- ・ 分かりやすかった。四分音符と八分音符で「ッ」、「ン」などの少しの違いで音の長さが変わることが改めて感じる事ができました。
- ・ 口でリズムを唱えると長さとかも分かりました。

I-b. 実践例2（動的に音楽を捉えるリズムトレーニング）

- ・ 休符の次の音符が鋭くなったりするのが動きで感じられたので分かりやすかった。
- ・ 休符の時に手をからぶる動きを取って、休符を取る感覚がよく分かった。
- ・ 拍の長さとかもつかめるので良かった。
- ・ リズムの感じ方がなんとなく分かった。
- ・ 特にシンコペーションがあまり分かっていなかったなので、今回の「動きでリズムを取る」という面でどこを強くしたら良いのとか、拍の感じ方など理解できました。
- ・ 動きでリズムを感じると、ちゃんと身体に染み着きやすいなと思いました。

II. 実践例の考察

II-a. 実践例1（音価の比率を体験する口唱歌によるリズムトレーニング）

口唱歌によるリズム唱では、生徒たちは少なからず達成感を持ったようである。つまり非常に導入が容易な方法であることが分かる。また、どの年齢層への指導でも使える可能性が高く、汎用性がある。しかし、筆者は音楽的なより深いニュアンスを感じ取るまでには至らないと感じた。楽譜に書かれている表面上のリズムとしては理解できるが、どこか応急処置的であり、音楽の本質的なリズム表現に結びつける読譜法としては不十分である。音符や拍を点として捉えることはできるが、音楽（時間）の流れの中で、そのリズムがどのような表現上の役割となるか感じ取るためには別のトレーニング方法が必要である。

しかしながら、口唱歌による方法は、初歩の学習者にとって楽譜、リズムの理解を助ける一助になると考えられる。

II-b. 実践例2（動的に音楽を捉えるリズムトレーニング）

音楽を動的に捉えるということには、一部理解に時間のかかる生徒がいるようである。均等に円を描くような動作が滑らかでない生徒も数名見られた。そのような生徒は、拍感やテンポを表現することが苦手であり、アインザッツを示す場面でも苦勞している。そういった生徒への指導方法としては、大変意味のある指導例となると考えるが、まとまった継続的なトレーニングが必要であろう。

ある程度ソルフェージュ力がある生徒は、身体の動きとリズムを一体として捉えることを感じる取ることができたようである。演奏でのシンコペーションや付点のリズムがもたらす躍動感や拍節感の表現力の高まりが感じられた。

4. まとめ

口唱歌は導入に適していて、より音楽的な表現を身につけるためには身体の動きを伴った訓練が必要であることが分かった。

楽譜に記されていることは、表面的な見方をすれば、2次元的な単なる音の連なりや音の重なりに過ぎない。それをリズムの持つ動的なエネルギーまで音楽を深く感じ取ることができるようになるための一つの実践として、本稿で提示した。

生徒たちのほとんどは演奏に際し発音する瞬間は意識があるが、休符や音を伸ばしている時間には、音や間に対する意識がないか、薄いと感じられる。事前アンケートの結果からも、音高や音階を演奏することに精一杯で、リズムに対する注意力は二の次となっているのかもしれない。音楽の成り立ちの上では、メロディーよりもリズムが先に現れたと言われている。楽譜上のリズムから、音楽の表現する動きが見えてくる想像力が欲しい。このようなリズム読譜についての表現力を身につけることができれば、音楽表現力全体の高まりが期待される。

今回の実践から、生徒はリズムを点として感じ取るにとどまり、時間の流れの中で認識する感性が未発達であることが感じられた。リズムを体の動きを伴って表現できることがひとつの課題であるが、実際には体を動かさなくても、その音には明確なリズムの表現ができていたことが理想である。

これまで生徒たちは、授業や部活動で複数年、音楽経験を積んできた。しかし、演奏の見栄えを優先した表面上の読譜指導のみが行われた結果、主体的に楽譜から表現を読み取り、そこから音楽を感じ取る表現意欲が育まれずにきた面がある。

今回の実践を通して、専門的な音楽教育を受けていない高校生が、リズムを拍節感や躍動感を感じ取れるまで深く認知していくために、動的に音楽を捉えることが重要であることが分かった。楽譜を読めるということは、単に表面上の読譜能力ではなく主体的にその音楽が持つ表現まで感じ取って、音楽表現できるということである。

生徒たちが将来、生涯にわたって音楽活動をしたり、教員や保育士など、音楽指導者として活躍するためには、主体的に読譜を行う力が不可欠である。指導する世代を問わずに範唱、範奏という形で音楽表現をすることができる力、また、範唱、範奏をする上で、楽譜に書き記されている音楽表現を感じ取る力は、指導者に大切な読譜能力である。

参考文献

- 1) 大坪豊：音楽事始，東北生活文化大学短期大学部，2015
- 2) 舟橋三十子・吉川和夫・山口多嘉子：はじめてのソルフェージュ1リズム編〔基礎〕，全音楽譜出版社，1984
- 3) 文部科学省：小学校学習指導要領解説音楽編，2008
- 4) 文部科学省：中学校学習指導要領解説音楽編，2008
- 5) 文部科学省：高等学校学習指導要領解説芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編，2009

TOHOKU SEIKATSU BUNKA
UNIVERSITY
JUNIOR COLLEGE

教育実習報告



平成29年度 教育実習一覧

家政学部家政学科

家庭科教諭

実習先	実習期間	人数
青森 千葉学園高等学校	平成29年5月15日～6月2日	1名
山形 山形県立山辺高等学校	平成29年5月16日～6月2日	1名
山形 山本学園高等学校	平成29年6月6日～6月27日	1名
福島 福島県立湯本高等学校	平成29年6月1日～6月21日	1名

栄養教諭

実習先	実習期間	人数
仙台市立市名坂小学校	平成29年10月16日～10月20日	1名
仙台市立柳生小学校	平成29年10月16日～10月20日	2名
仙台市立折立小学校	平成29年10月16日～10月20日	2名
仙台市立旭丘小学校	平成29年10月16日～10月20日	1名

家政学部生活美術学科

美術科教諭

実習先	実習期間	人数
宮城 富谷市立富谷第二中学校	平成29年5月15日～6月2日	1名
宮城 利府町立利府中学校	平成29年5月15日～6月2日	1名
宮城 塩釜市立第一中学校	平成29年5月22日～6月9日	1名
岩手 宮古市立第一中学校	平成29年5月29日～6月16日	1名
宮城 宮城県佐沼高等学校	平成29年6月19日～7月7日	1名
宮城 宮城県田尻さくら高等学校	平成29年6月19日～7月7日	1名
宮城 宮城県本吉響高等学校	平成29年6月26日～7月14日	1名

教育実習報告 —教育実習(家庭科)を振り返って—

佐々木 翔平*

1. 授業実習について

平成 29 年 6 月 1 日から 6 月 21 日までの 3 週間、母校である福島県立湯本高等学校で教育実習をさせていただきました。

今回の教育実習で学んだことは大きく分けて 2 つあります。まず、1 つめが教える力です。授業実習 1 回目の授業を今、思い返すとただ教科書の内容に沿ったつまらない授業だったと思います。そこで私は、生徒の視点になりどのような授業をされたら楽しく、生徒に身につく授業ができるのかを考えました。教科書と板書をノートに写させる授業だけでは、生徒は飽きやすいので、家庭科だからこそできる授業を心掛けました。天然繊維についての授業では、綿、麻、毛、絹の繊維とそれらを糸などの製品に加工したものを用意し、生徒に実際に触れさせ、繊維の特徴や触らないとわからない手触り、感触などを感じてもらい工夫を取り入れました。見る、聞くが主の授業に触るという刺激は、生徒には、新鮮で授業内容が頭に印象深く残ると思いました。教材を工夫した事以外に、教科書には載っていないけど生活に役立つ知識などを使って生徒の興味、関心を引かせるような工夫も行いました。これは、教科担当の先生の授業を参考にしました。先生の授業は、生徒の興味、関心を持ってこさせるのが上手く、板書に時間をかけずに「話」で授業を進めていました。教科書と板書を軸に授業をするのは、よく使われていることもあり比較的やりやすい授業だと思います。しかし、「話」を中心に授業を進めるとなると完全に授業の構成や知識が頭に入りつつ、わかりやすい説明をしなければならぬので、知識と経験が必要だと思いました。このスタイルの授業は、板書の時間や生徒のノートを取る労力が最低限に抑えられ、効果的に使うことによって、より深い授業をすることができると思うので、私も「話」の授業ができるように知識と経験を積んでいきたいです。

2. コミュニケーションについて

学んだことの 2 つめはコミュニケーション力です。この 3 週間は、本当に様々な先生と生徒と関わることができました。しかし、最初は先生として生徒と話せばよいのか、実習

*東北生活文化大学 家政学部家政学科服飾文化専攻 4 年

生として生徒と話せばいいのかわからず、言葉遣いに悩みましたが、生徒から見れば実習生でも「先生」なので、様々な先生の生徒への話し方を参考にして、話し方を工夫しました。また、授業中の生徒への話し方と、休み時間中の話し方を少し変え、授業中は規律がある正しい言葉を選び、休み時間では少しフランクに話すように意識しました。その結果、授業を真面目な雰囲気の中行うことができ、休み時間では様々な生徒が話しかけてくれたりするようになりとても良かったです。この3週間で何十、何百人とコミュニケーションをとった経験は、将来必ず役に立つと思うので、この経験を生かされるよう頑張っていきたいと思いました。

最後に、この母校である湯本高校で3週間教育実習を行えた事は、とても幸せなことだと思いました。授業の準備や大学生活から実習生活への順応、生徒との話し方や接し方など初めてのことばかりで大変でしたが周りの人の支えがあり、教育実習をやり遂げることができたと思います。この感謝の気持ちを力に変えて、自分自身の将来に進んでいこうと思います。

教育実習報告 ー 栄養教育実習を振り返ってー

虻川 由佳*

平成 29 年 10 月 17 日～24 日のうちの 5 日間、仙台市立市名坂小学校で栄養教育実習をさせていただいた。

仙台市立市名坂小学校について、学校の属する泉区中央地区は再開発が進む地域であり、人口の増加とともに入学する子供の数が増加している。児童は全校で 570 人おり、明るく、活発な子供が多い。地域の方による学校ボランティアが盛んで、毎年 1000 人以上の方々が子供たちを支える、地域と密着した学校である。

配属学年は 2 年生であった。実習内容について、児童の前で授業をしたのは 3 回で、最終日の研究授業に向けて、他クラスで 2 回、食に関する授業を行った。形式は担任の先生との T-T である。頂いたテーマに沿った指導案を実習前に考え、それを先生方に添削して頂いた。授業後には児童が書いたワークシートなどを見て、うまくいかなかった点を直すなど反省と校正を繰り返した。他に 1、2 年生の授業見学や先生方からの講話をしていただき、休み時間には児童と積極的に遊ぶなどした。給食指導では、配膳・盛り付け指導(衛生面、適切な量について)、食器の使い方、食べるスピード、好き嫌いについて呼びかけをした。

全体を通して、最も学んだことは児童の実態をとらえた指導を行うことだった。大学の授業でも、実態をとらえる、児童に合った授業を行うことの重要性はよく感じていたが、実習に行く前はまだその言葉を形式的にしか理解できていなかったと思う。本にあるような発達段階は参考にはなってもそれがすべて当てはまるわけではない。低学年の児童には熟語の音読みは伝わりにくいことが多くあり、訓読みに変えて伝える必要があることや、わからないことが言い出せない子供をどう見つけるか、アレルギーや障害など配慮するべき児童への対応、こちらから教えるべきところと児童に考えさせるべきところの違いなど、具体的に注意すべき点を知ることができた。また、それらを踏まえてのアプローチの仕方には先生方によってバラエティーに富んでいて、そのアイデアがとても参考になった。それらの具体的な実態の踏まえる視点を知られたことに加え、考え、工夫し、試すことを毎日繰り返すことで、刻々と変化する児童の実態を、とらえ続けることが重要だと

*東北生活文化大学 家政学部家政学科健康栄養学専攻 4 年

学んだ。栄養教諭は給食管理があるので、子供たちと過ごす時間はわずかに限られる。よって、実際授業をするにあたっては子供たちの様子をよく知る担任の先生の意見を反映させた指導案とすることが大切である。

実際授業をしてみて、1回目や2回目はできないことが多すぎてとても苦勞した。予想外の子供の発言にどう返せばよいのか迷っているうちに話がそれてしまったり、時間も予定より長引いてしまい、何をいちばん伝えたいのか絞れなかったり、授業をする大変さを実感した。しかし、反省会で先生方とできなかった点を明確にし、目標を立てて一つ一つ解決していくようにした。子供たちからも「先生の授業楽しみ！」という声が聞かれ、それがとても力になった。最後の3回目には子供たちの名前を呼び、表情をきちんと見る余裕も持って授業ができ、子供たちのワークシートからも伝えたかった言葉が多くみられた。大変だったが先生方や子供たちに支えられて、3回のうち最も良い授業をすることができ、とてもうれしかった。子供たちに授業で教えに来たはずが、いちばん教わったのは自分だった。実際に子供たちと触れ合ったり、先生の対応を見たりして、その場において体験することではわからないことをたくさん学ぶことができた。

短い時間だったが、栄養教諭の仕事とその大変さや喜びを知り、成長できた5日間だった。多くの人に支えられ、実習をできたことに感謝の気持ちでいっぱいである。実習で得たことを今後の糧とし、ご指導いただいたところをさらによくしていけるよう、生活の中でも一つずつ実践していこうと思う。

教育実習報告

－ 3 週間の教育実習を終えて －

鈴木 美緒*

私は、母校である宮城県本吉響高等学校で、6月26日から7月14日までの3週間に渡り、教育実習をさせて頂きました。本吉響高校は気仙沼・本吉地区唯一の総合学科の高校で、在校生約300名が自分の進みたい進路に合わせて系列と科目選択をしていくため、自習中も各分野の授業の特色などを知ることが出来ました。私は、クラスは2年1組で教科は美術と工芸を担当させて頂き、放課後の時間は美術部の指導をさせて頂きました。

1週間は、授業の参観とHRの見学をしました。教科によって、授業の進め方はそれぞれで、分かりやすく伝えるためにはどうするか、という試行錯誤の中から生まれた工夫を目の当たりにし、私自身の研究授業にも活かすことが出来ました。特に板書は書くスピードやタイミング、文字の大きさなど訓練が必要だと感じました。HRでは、朝の打合せで聞いた内容を生徒に分かりやすく伝えることが難しく、話す順番や言葉の使い方を考えなければいけないと感じました。

2週間は、実際に授業を行いました。担当教科の先生がやっている授業を見学し、同じ内容を私が実践しました。そこで感じたことは、授業中の声掛けの大切さです。授業中に生徒とのやり取りを行い、生徒に発表させる場面を作ったり、全体指導で伝わり切らなかった部分は机間指導で個別に対応するなどを行う必要があると感じました。

また研究授業の準備とともに放課後の部活動に参加しました。生徒にキャンパスの貼り方を伝授したり、進路相談を受けたり、年齢が近いからこそできた交流がありました。また作品展に向けて一生懸命制作に励む生徒たちの姿が印象的で、私も何か役に立たちたいという気持ちが強くなり、参考資料の紹介や描き方のアドバイスを行いました。大学での制作活動や講評会の経験が活きたと感じます。

3週間は研究授業に取り組みました。この時期は、色彩についての授業を行っていたため、色の見方を広げたいという考えがあり、ゴッホ作品の鑑賞を行い、色の使い方について学び、その後ワークシートを用いて、色鮮やかな色彩を体験してもらう活動を行いました。授業の前半では生徒と対話しながら進めることを行いたかったのですが、私の質問の仕方が生徒にとっては難しく、活発な意見出しに繋げることが出来なかったのが反省点

*東北生活文化大学 家政学部生活美術学科4年

です。後半で行った色鉛筆でゴッホの色彩体験を行うワークシートは楽しみながら取り組んでくれている生徒が多い印象を受けましたが、今回私が伝えたかった価値があまり伝わっていないと感じる作品もありました。その後の講評会で先生方がくださった意見の中に、生徒の作品を見れば教師の指導力が分かるというものがあり、生徒の興味と指導したい内容を結びつける課題づくりをしていかなければいけないと感じます。現場の先生は現状に満足せず、その時の生徒の実態に合わせやり方を変え、型はありますが、常に試行錯誤している印象を受けました。教師としてよりよい授業を作ろうという姿勢を強く感じました。

3週間を終え、自分の経験不足で生徒や先生方に迷惑をかけてしまうことが多くありました。教師という仕事は日々忙しく終わりの見えない仕事であるとも感じました。しかしそこで働く先輩方の姿はカッコよく、生徒と関わる様子はとてもいきいきしていると感じました。私自身も授業の準備などで大変だと感じることもありましたが、生徒の素直な反応をみたり励ましの言葉をもらおうと、生徒のために頑張りたい！と気持ちを前向きにすることができました。この3週間の貴重な経験を今後の人生に役立てていきたいです。

平成29年度 教育実習(幼稚園)一覧

実習期間：平成29年10月2日(月)～10/27(金)

	No.	幼稚園名	人数
仙 台 市 内	1	東二番丁幼稚園	1名
	2	旭ヶ丘幼稚園	1名
	3	幼保連携型認定こども園 泉ヶ丘幼稚園・アルル保育園	2名
	4	折立幼稚園	1名
	5	聖ドミニコ学院幼稚園	1名
	6	わかくさ幼稚園	1名
	7	上田子幼稚園	1名
	8	ナザレト幼稚園	1名
	9	はなぶさ幼稚園	1名
	10	聖ウルスラ学院英智幼稚園	1名
	11	るり幼稚園	1名
	12	仙台市立あきう幼稚園	1名
	13	しげる幼稚園	1名
	14	南光幼稚園	1名
	15	ふたばエンゼル幼稚園	2名
	16	泉の杜幼稚園	1名
	17	南光紫陽幼稚園	1名
宮 城 県 内	18	ひより台幼稚園	1名
	19	鷹乃杜幼稚園	1名
	20	東北学院幼稚園	1名
	21	塩釜第二中央幼稚園	1名
	22	塩釜ひまわり幼稚園	2名
	23	利府聖光幼稚園	1名
	24	栗原市立栗駒幼稚園	1名
宮 城 県 外	25	聖ヤコブ幼稚園	1名
	26	認定こども園千畑なかよし園	1名
	27	大館ホテヤこども園	1名
	28	大湊村立大湊幼稚園	1名
	29	あたごこども園	1名
	30	幼保連携型認定こども園 飯豊わくわくこども園	1名
	31	幼保連携型認定こども園 城南幼稚園	2名
	32	みどり幼稚園	1名

幼稚園実習で学んだこと — 造形活動への取組から —

熊谷 遥*

私は、塩釜ひまわり幼稚園で実習をさせていただきました。ひまわり幼稚園は「元気で、明るく」をモットーにしている園です。そのモットーの通り、子どもたち、先生方はとても明るく、園内には楽しそうな声が溢れていました。出身園ということで懐かしさもあり、自分が幼稚園に通っていたことを思い出しながら、毎日目標をもって実習に臨みました。担当した年中組は、造形活動が日常的に行われているクラスで、子どもたちは身近材や新聞紙を使ってカメラやロボット、魔法の杖や変身ベルト等を作って遊んでいました。その時、先生方は机を出したり、どのように道具を使えばよいか約束をしたりして、子どもたちが安全に遊ぶことができるよう配慮し、一緒に遊びながら様子を見守っていました。私はここで「〇〇を作ろう」と指示するのではなく、遊びの中から表現が生まれてくるような工夫をし、一方で安全に十分に配慮している先生方の支援のあり方を学びました。こういうクラスでしたので、私は子どもたちから「先生も作って」と言われることがたくさんありました。そこで、折り紙や新聞紙で作れるもののレパートリーを増やすよう努め、子どもたちとの距離がぐっと縮まったように思います。

研究保育でも造形活動に取り組みました。私は、子どもたちが園内の敷地内にある山で、どんぐりやかりんを拾って遊んでいたことから、拾ったものを入れるお散歩バックを作りました。その際、最も悩んだのは子どもたちの作業スピードの差でした。早く終わった子どもの対応をどうするか悩んでいた時、担当の先生から「最後まで一貫性があるほうが、子どもたちが活動を楽しみにする気持ちに繋がる」と指導していただきました。そこで私は、秋の自然物を描いた塗り絵を作り、子どもたちに渡すことにしました。早く作業が終わった子どもたちは、とても楽しそうに塗り絵に取り組み、外で遊ぶことに期待を抱いている様子でした。研究保育を見てくださった先生からは「活動の後に塗り絵をしたのは初めてだった、良かったよ」と褒めていただきました。私は、子どもたちの意欲を持続させることの大切さと、そのためにはどうすればいいかについて1つの手立てを学ぶことができたように思います。

*東北生活文化大学短期大学部 生活文化学科子ども生活専攻2年

失敗してしまったことは勿論ありましたが、毎日の反省会で何がいけなかったのか、改善するにはどうすればいいか考え、諦めずに挑戦することを心がけました。それが、保育者としての成長に繋がるということを実習を通して学びました。何より、子どもたちの元気な笑顔が力になりました。私は4月から、保育者として働き始めます。不安なことはたくさんありますが、実習で学んだことを糧に、子どもたちの笑顔が輝く元気なクラスを作っていきたいと思います。

**東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部
教職課程センター報 Vol.2**

発行日：2018.2.15

発行者：学校法人 三島学園

東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部
教職課程センター

〒981-8585

仙台市泉区虹の丘1-18-2

TEL 022-272-7513 FAX 022-301-5602